令和８年度　授業改善推進プラン（課題分析と授業改善策）【２年生】　　３１４　練馬区立豊渓中学校

	課題分析	授業改善策
国語	・自身の考えを文章にして適切に表現することを苦手とする生徒が多い。 ・自身の考えに自信がもてず、意見交流が消極的になることがある。	・自身の考えを短い文で表現させることから始め、書くことへの抵抗感を減らす。 ・自由度の高い小集団で意見を共有し、他者の文章表現に触れ、自身の表現に生かすよう促す。
社会	・基礎的・基本的な知識の理解や定着に対し、個人差が大きい。 ・積極的に発言する生徒がいる一方、話し合いに消極的な生徒もいる。	・授業の始めに確認問題や自分の言葉でふりかえりを書く場面を計画的に用意し、基礎的・基本的な知識の理解度を確認するとともに定着を図る。 ・対話的な活動や教え合い活動の際には、ペアやグループに応じた指導を適宜行う。
数学	・基礎的な計算力が身に付いていない生徒がいる。 ・数学に苦手意識がある生徒も少人数授業では積極的な取り組みが見られる。 ・数学に関心の高い生徒が、高難度の問題を積極的に取り組んでいる。	・小テストを行う前に、出題の内容を提示し、事前に家庭で学習する習慣を身に付けさせる。 ・自分で解答を考え、仲間と相談しながら協働的に学ぶ機会を増やし、意欲を高める工夫をする。
理科	・理科に興味関心が高く、実験を楽しみにしている生徒が多い。真面目に学習に取り組む雰囲気がある。 ・活発に発言する生徒、発言が消極的な生徒が固定化してきている。 ・生徒間の学力差が大きく、個別支援が必要な生徒が数名いる。	・教室のＩＣＴ機器の活用や実験の回数を増やして、生徒の興味関心をさらに高め、基礎学力の定着と向上を図る。 ・発問する時は様々な生徒を指名し、発言しない生徒の考えを引き出して参加意欲を高める。 ・実験時は学校生活支援員が授業に入り、個別支援及び事故防止を図っている。
音楽	・1年次の学習を通して、音楽を構成する要素についての基礎的な知識は身に付いてきている一方、音楽の要素と曲想や表現との関わりを捉え、自分の考えを具体的に説明することに課題がある。 ・歌唱や器楽では、音程やリズムなどの技能を意識して取り組むことができる生徒がいる一方、曲想や歌詞の内容を踏まえて、表現を工夫することに課題がある。 ・鑑賞では、感じたことを述べることはできても、音楽の構造や特徴を根拠として、自分の考えを深めることに課題がある。	・音楽を構成する要素に着目させ、「どのような特徴があるか」→「どのような感じがするか」→「なぜそう感じるのか」を考える活動を取り入れる。 ・歌唱や器楽では、歌詞や曲想と音楽の構造との関わりを考えさせ、表現の工夫を試行・比較しながら、よりよい表現を選択する活動を充実させる。 ・鑑賞では、発問を具体化し、音楽の要素を根拠にして考えを説明する場面を設定することで、「感じたこと」だけでなく「音楽のどこからそう感じたのか」を言葉で表現する力を育てる。
美術	・意図して表現することやアイデアをじっくりと練ることを苦手とする生徒が多い。 ・道具や材料の使い方に課題のある生徒も多い。	・多様な作品群を鑑賞し、作者の意図に触れさせ、多くの表現方法を学ぶ機会をつくる。 ・生徒が伸び伸びと表現できるよう、道具や材料の適切な使い方やその特性を個別に指導し、掲示物で表記するなど何度も確認できるようにする。

保健体育	・新たな動きの運動や、自分が苦手な運動に対して消極的になってしまう生徒が多い。 ・全身持久力や筋力等、全体的な体力向上が必要である。	・ペアやグループでお互いに声をかけ合いながら活動を行っていく。各単元の導入で様々な運動に触れる機会を増やす。 ・授業の中で筋力トレーニングやランニング等を取り入れるとともに、単元の導入で体力向上の要素を含んだ活動を取り入れる。
技術・家庭	【技術】 ・日常の生活体験が技術家庭の学習には大切であるが、体験が少ない生徒もいるため、知識や理解力に差が生じている。 ・創意工夫や想像力を高める必要がある。 【家庭科】 ・学習した知識を活用して、生活上の課題を解決する力に課題がある。 ・自分の考えを根拠をもって説明することに課題がある。 ・他者の意見を聞き、自分の考えを広げる機会が十分でない。	【技術】 ・授業において発想や工夫を重要視する教材を使用して、生活体験の差を補う実験を増やし経験の知恵を生かせるように努める。 ・アイデアや創意工夫を製作活動に反映させて、製作の楽しさを体感させ学習意欲を高めている。 【家庭科】 ・具体的な生活課題を設定し、解決方法を考える活動を取り入れる。 ・理由や根拠を明確にして考えを伝える活動を取り入れる。 ・ペアやグループで意見を交流し、考えを比較・検討する場を設ける。
外国語（英語）	・話す活動に消極的で、相手に自分の意見を伝えることに時間がかかってしまう生徒がいる。 ・授業外での学習習慣が身に付いていない生徒がいる。	・既習表現を使った定型文や語句を提示し、短い表現でも自分の考えを伝える経験を積ませる。 ・家庭でできる学習内容を具体的に示し、短時間でも継続して取り組める課題を設定する。